

議第 1 号

本巢都市計画道路の変更について

(岐阜県決定)

令和 4 年 1 0 月 3 日提出

岐阜県都市計画審議会

会長 高木 朗義

都政第 1 1 2 号の 2

岐阜県都市計画審議会

本県都市計画道路を次のように変更したいので、都市計画法第 2 1 条第 2 項において準用する同法第 1 8 条第 1 項の規定により諮問します。

令和 4 年 9 月 9 日

岐阜県

上記代表者 岐阜県知事 古田 肇

本巣都市計画道路の変更（岐阜県決定）

都市計画道路中 3・4・1 号長良糸貫線を次のように変更する。

種別	名 称		位 置			区 域	構 造					備考
	番 号	路 線 名	起 点	終 点	主 経 過 地	延 長	構造形式	車線の数	幅 員	地表式の区間における鉄道等との交 差 の 構 造		
幹線街路	3・4・1	長良糸貫線	本巣市北野字唐	本巣市屋井字川添	本巣市北野字宮裏、郡府字郡府、上保字菰縄手、三橋字糸貫川通、見延字河原端、随原字村前、七五三字更屋敷北、屋井字八幡	約 4,940m	地表式	2 車線	16m			
	車線数の内訳		2 車線			約 2,910m						
			4 車線			約 2,030m						
	構造形式の内訳		本巣市屋井字川添	本巣市屋井字川添		約 440m	嵩上式	2 車線	14～44m			
						約 4,510m	地表式		16～26m	・樽見鉄道と平面交差 ・幹線街路と平面交差 1 箇所		

「位置、区域及び構造は計画図表示のとおり」

理 由

樽見鉄道との交差の構造を立体交差から平面交差に変更し、幅員を変更するものである。

本巣都市計画道路の変更に関する補足説明

1 変更内容

名 称		変 更 内 容
番 号	路 線 名	
3・4・1	長良糸貫線	○区域の変更 変更延長 L=300m（本巣市見延地内） 幅員 W=26.8m→16m ○地表式の区間における鉄道等との交差の構造の変更 樽見鉄道と本巣市見延地内で立体交差→樽見鉄道と平面交差 ○住所表示の変更 本巣市大字北野字唐→本巣市北野字唐 本巣市大字屋井字川添→本巣市屋井字川添

2 関係機関との協議 本巣市

3 縦覧期間 令和4年7月15日 ～ 令和4年7月29日

4 意見書の提出 なし

理 由 書

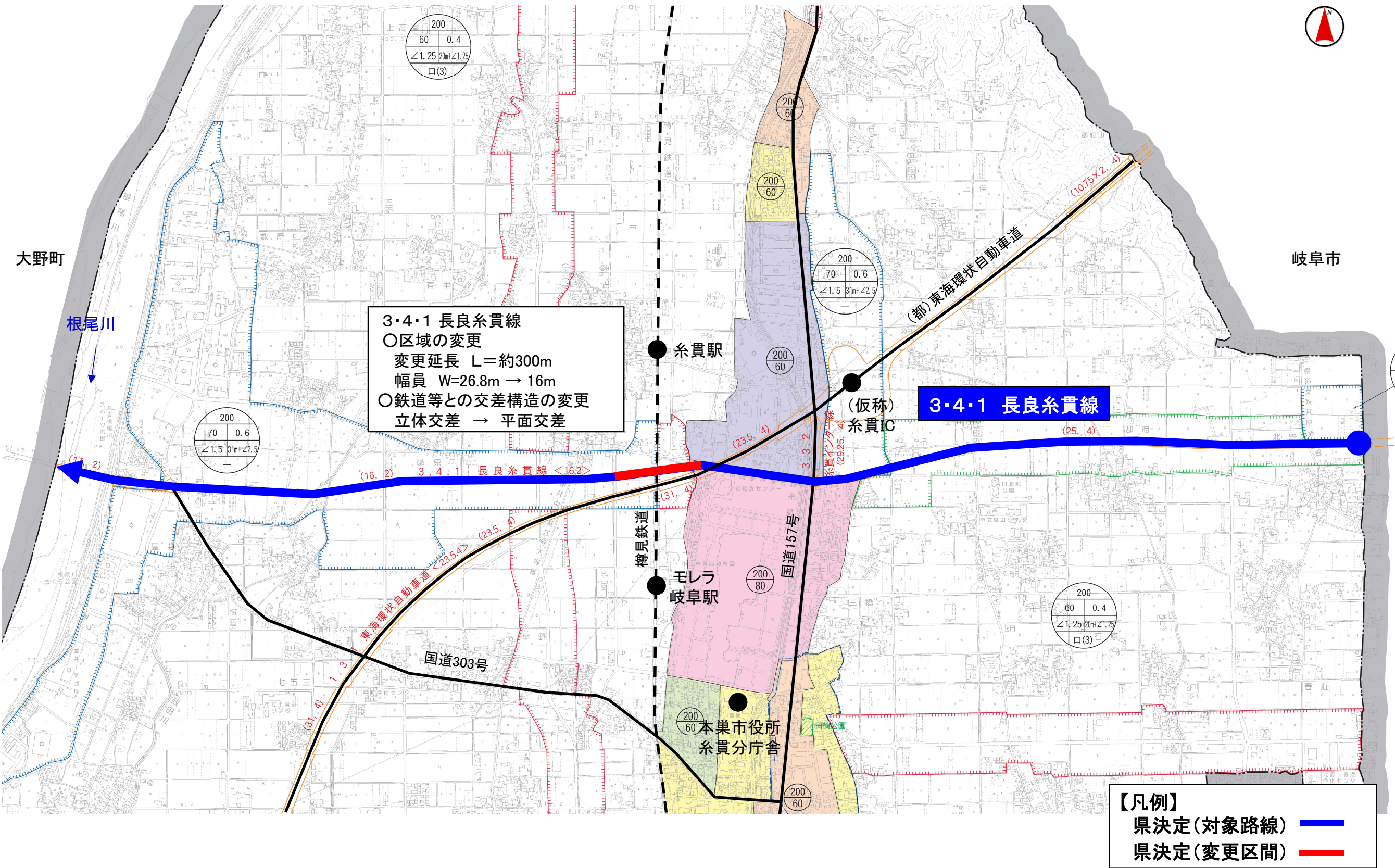
本巢都市計画道路 3・4・1 号長良糸貫線（以下「当路線」という。）は、本巢市北野字唐地内の岐阜市境を起点とし、本巢市屋井字川添地内の大野町境を終点とする延長約 4,940 m、幅員 16 m、車線数 2 車線の幹線街路である。また、当路線は、本巢都市計画区域マスタープランにおいて、東西方向の都市間連携軸として位置付けており、広域連携軸に位置付ける（都）東海環状自動車道とを結び、本市の南北方向の都市間連携軸に位置付ける一般国道 157 号（（都）糸貫インター線を含む。）及び根尾川左岸堤防道路、都市内環状連絡軸に位置付ける（市）西部連絡道路線及び（市）糸貫 0007 号線と接続する本巢市の骨格を成す道路である。

本巢都市計画区域マスタープラン及び本巢市都市計画マスタープランでは、当路線について（都）東海環状自動車道（仮称）糸貫インターチェンジへのアクセス道路として生活や産業に必要な路線であり、優先的な整備を進める施設として位置付けている。

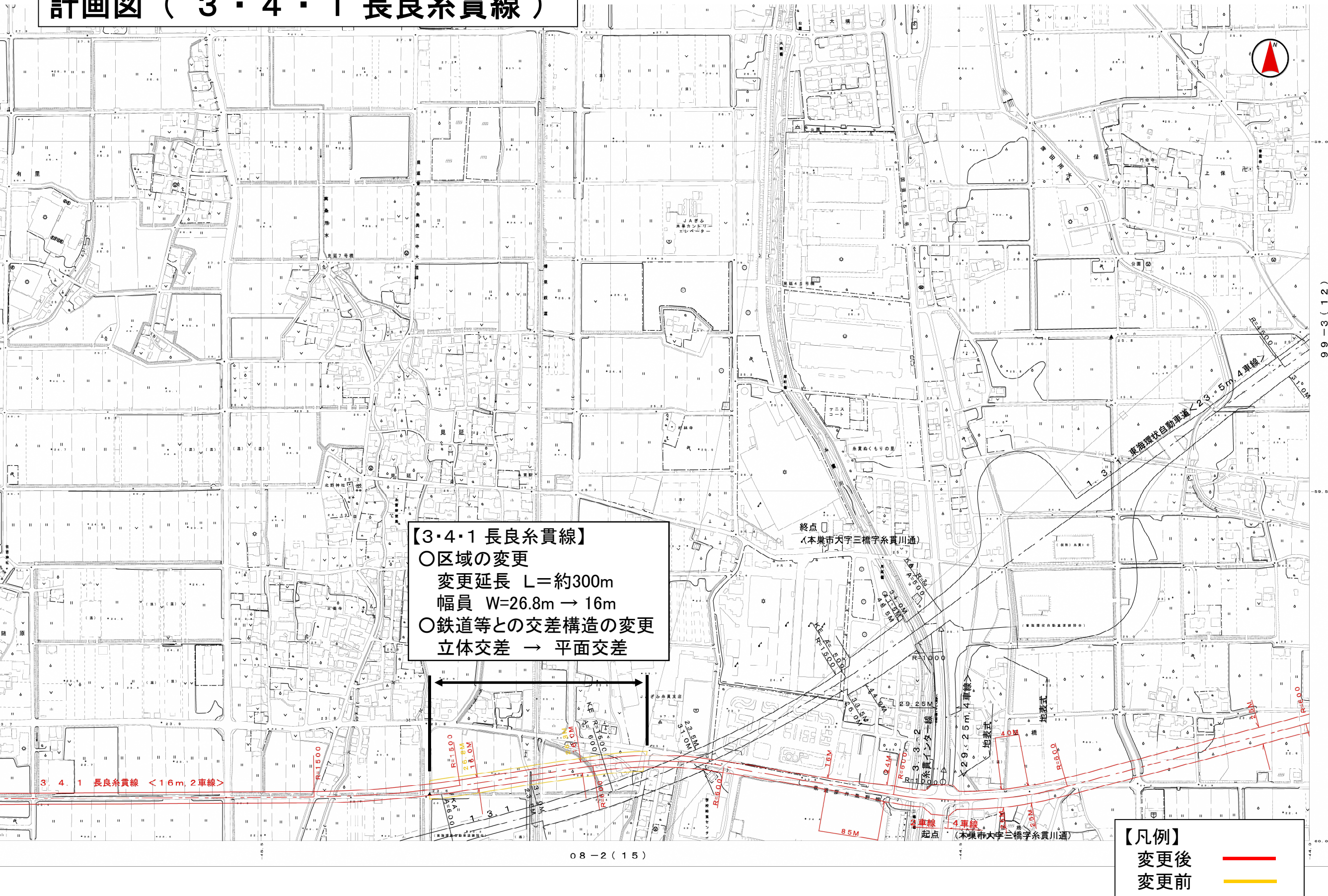
当路線の整備については、起点から一般国道 303 号までの延長約 4,500 m のうちの一部区間を現在整備中であり、円滑な道路ネットワークを実現するため、早期の整備が求められている。また、現在（都）東海環状自動車道の整備が進められており、（仮称）糸貫インターチェンジを含む山県インターチェンジから大野神戸インターチェンジ間が令和 6 年度に開通見込みであることから、インターチェンジへの主要なアクセス道路となる当路線の整備が重要となっている。

このような中、樽見鉄道樽見線との交差部において、現在では、社会情勢の変化に伴い、鉄道の運行状況は 1 時間あたり 0～4 本、1 日あたり 42 本程度であり、貨物の運行が廃止されるなど、交通への影響は決定当時と比較し減少している。また、当路線の一部においては土地利用が進んでおり、立体交差とした場合には、その土地利用に著しい制約が生じると懸念される。そのほか、立体交差とした場合に歩行者への身体的負担が大きいこと、沿線の土地利用等を勘案し、鉄道との交差方式を立体交差から平面交差に変更し、当該変更に伴い側道が不要となることから、当該変更区間の幅員を縮小するものである。

本巢都市計画区域総括図



計画図（ 3・4・1 長良系貫線 ）



【3・4・1 長良系貫線】
○区域の変更
変更延長 L=約300m
幅員 W=26.8m → 16m
○鉄道等との交差構造の変更
立体交差 → 平面交差

【凡例】
変更後
変更前